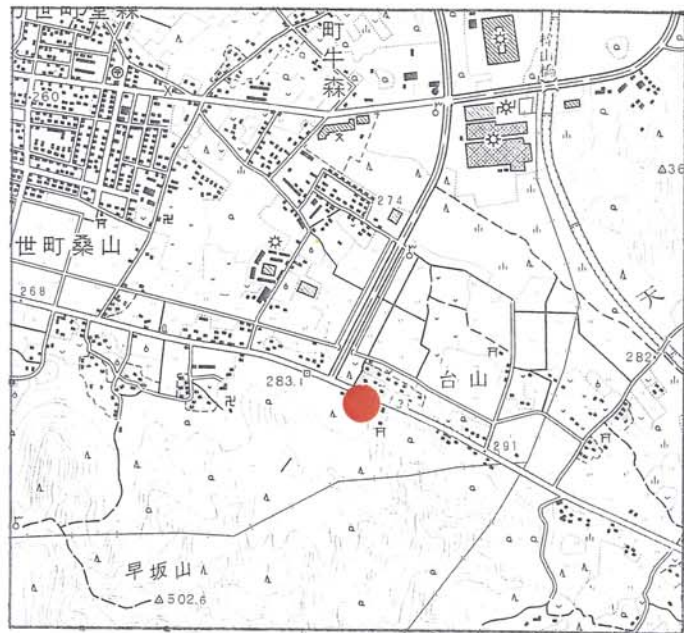


稲荷山館跡発掘調査説明会資料

2006年8月2日(水)

財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項	
遺跡名	稲荷山館跡
遺跡番号	米沢遺跡地区A-393
所在地	米沢市万世町梓山字稲荷山
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	東北中央自動車道(福島県境～米沢)建設
調査面積	200㎡
現地調査	平成18年7月18日～8月4日
遺跡種別	城館跡
時代	中世
遺構	土塁・堀跡・柱穴
遺物	内耳土塼
調査担当者	調査第一課長 野尻 侃 調査研究主幹 長橋 至 主任調査研究員 須賀井新人(調査主任) 調査員 阪 英子
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所 置賜教育事務所、米沢市教育委員会



調査の概要

稲荷山館跡は中世(鎌倉時代)の築城とされる周知の遺跡です。昨年度に続く第2次調査で、今回の調査範囲は館跡内部を対象としています。7月18日より調査を開始し、当時の構築物として現存する土塁と堀跡を主体に調査を行いました。

遺構と遺物

館跡は山麓の自然地形を利用し、尾根に面した空間を土塁と堀でL字形に区画して構築されたと考えられます。土塁とは土を盛り上げて造った土手で、外から攻め入る敵を防ぐための城壁のことです。調査による断面観察から、何層にも土を積み上げた状況がうかがわれました。これと平行して外側に築かれた堀も、防御のための施設です。柱穴は内部の建物跡を構成するもの的一部分と思われるのですが、調査区域が限定されたこともあり、内容については不明です。

稲荷山館跡は南西側にそびえる早坂山を背景として、山麓に築かれた「平城」に分類されます。本館跡は伝承によれば長井氏の家臣、熊坂利衛門の築城とされており、伊達氏の置賜侵入の際に最後まで戦ったが敗れ、廃城になったとの言い伝えがあります。梓山付近には10余りの館跡や山城が点在していることから、この地域が古来より交通の要所であったことがうかがわれます。

遺物には10数点の土器片があり、置賜地方の中世の遺跡によく見られる内耳土塼片が出土しています。



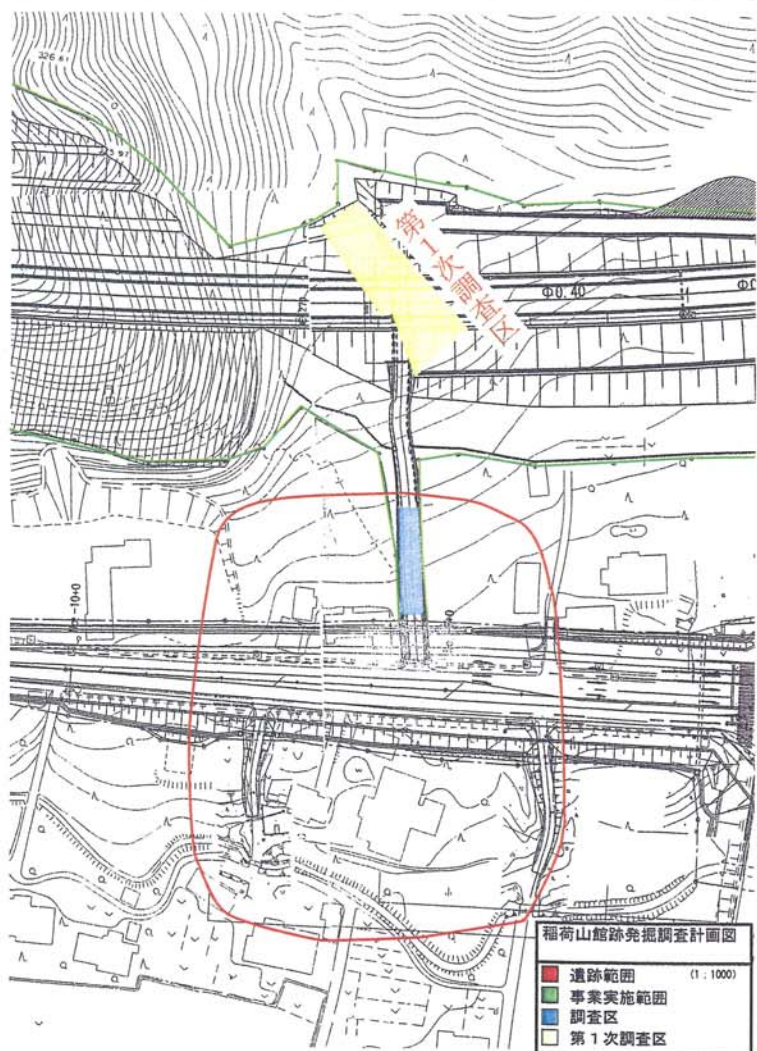
土塁の調査



調査風景



稲荷山館跡略測図



調査区全景(土塁・堀跡側より)



調査区全景(主郭側より)